

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第22週[5月30日～6月5日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/  
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

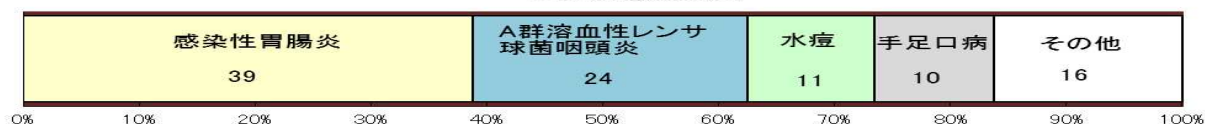
## 県内情報

### ○ 患者情報総評

#### 注意報発令疾患：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎，マイコプラズマ肺炎

- ・ 梅雨に入り週の中頃や週末は雨が降ったが，その他は晴れや曇りの日が多かった。
- ・ **感染性胃腸炎**は安芸と高幡でやや減少したが，その他の地域で増加し，総数は約1.3倍に増加した。
- ・ **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**（高知市：注意報→警報，高幡：注意報値→注意報，中央東：注意報）は中央医療圏で増加し，総数はさらに増加した。
- ・ **水痘**は高知市，中央東，幡多で増加し，総数は増加に転じた。
- ・ **手足口病**（高知市：注意報）は中央医療圏と幡多で増加し，総数は増加した。
- ・ **インフルエンザ**は総数はさらに1/3に減少し，定点当たり1.0を下回った。今シーズンの流行はまもなく終息を迎えると思われる。

上位疾患構成図



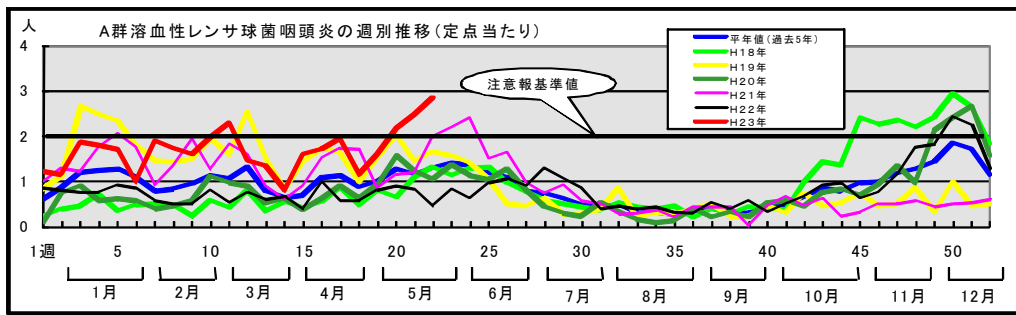
## 地域別感染症注意報・警報発生状況

第21報（2011年5月30日～2011年6月5日）



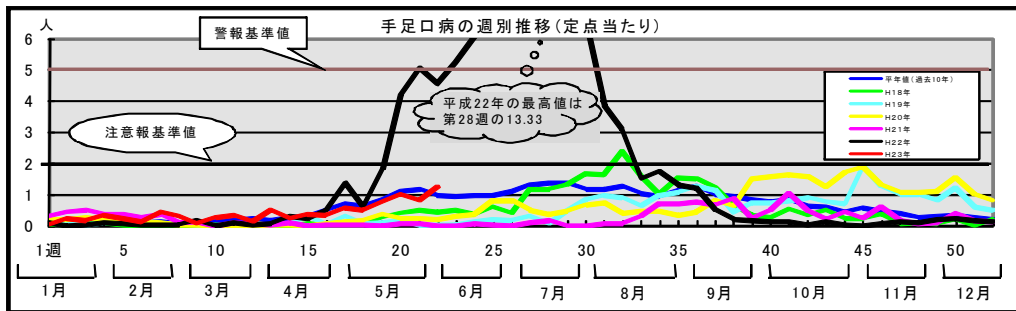
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：今週 2.83（注意報値：2.00 警報値：4.00）

総数はさらに増加し，例年同時期と比較して最も多い報告数となった。地域毎にみると，高知市で警報値を，中央東で注意報値を超している。また，高幡では引き続き注意報値を超している。年齢別では，3～8歳からの報告が多いが，その他の年齢の割合も増えており，注意が必要である。予防としては，患者との濃厚接触をさけることが最も重要であり，うがい，手洗いなどの一般的な予防法も励行する。



**手足口病：今週 1.23 (注意報値：2.00 警報値：5.00)**

前週は減少したが、今週は再び増加した。特に高知市での増加が目立ち、注意報値を超している。例年7～10月頃に流行のピークがみられており、今後の推移が注目される。



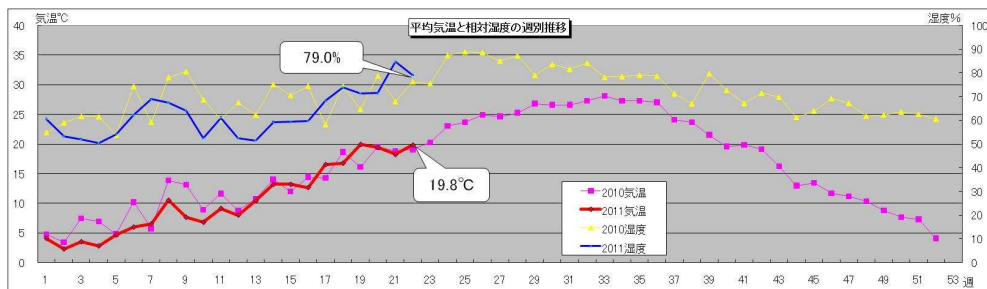
**検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
21	急性扁桃炎	1歳 男	高知市	Human bocavirus
21	ウイルス性肺炎	10ヵ月 男	高知市	Human metapneumovirus
21	肺炎	1歳 男	中央東	Human metapneumovirus
21	気管支炎	29歳 女	中央東	Human metapneumovirus
22	百日咳	24歳 女	高知市	<i>Bordetella pertussis</i>
21	感染性胃腸炎	4歳 女	高幡	<i>Campylobacter jejuni</i>
22	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11歳 不明	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1
22	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7歳 女	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T28

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 3例 (60代男) 《安芸》 (60代男) 《高知市》 (70代女) 《幡多》 (今年60例)

○ 高知県の平均気温と湿度 (週別)



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《さたけ小児科》：膿痂疹 1例 (3歳女) マイコプラズマ感染症 1例 (6歳男)  
 《渭南病院小児科》：アデノウイルス咽頭炎 2例 (2歳女, 1歳男) 帯状疱疹 1例 (14歳女)

高幡：

《もりはた小児科》：インフルエンザの3例は全てB型陽性、予防接種歴ありは1例  
 アデノウイルス扁桃炎 3例 (3～5歳)  
 感染性胃腸炎の1例 (6歳男) はカンピロバクター腸炎

中央西：

《石黒小児科》：インフルエンザの1例はB型陽性、予防接種歴なし 単純ヘルペス 1例 (1歳男)

《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の1例（1歳男）は高知市 帯状疱疹 1例（7歳女）

《日高クリニック》：マイコプラズマ肺炎 2例（8歳男：須崎市，3歳女）

《高北病院内科》：インフルエンザの2例はB型陽性

#### 高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：インフルエンザの2例はB型陽性，予防接種歴ありは1例  
アデノウイルス陽性 2例（4，6歳女）  
百日咳の1例（29歳男）は東浜株320倍，山口株160倍，DPT接種歴不明  
病原性大腸菌 1例（0-1:9歳女）ベロ毒素陰性  
カンピロバクター腸炎 2例（2歳男，14歳女）

《ふないキッズクリニック》：インフルエンザの2例はB型陽性

《近森病院内科》：インフルエンザの2例は臨床診断

#### 中央東：

《あけぼの小児クリニック》：インフルエンザの2例はB型陽性

《野市中央病院小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性，予防接種歴なし

《早明浦病院小児科》：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎，手足口病が増加

### 全国情報第20週（5/16～5/22）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核306例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症64例（有症者47例、うちHUS 2例）、腸チフス2例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎2例、つつが虫病8例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、マラリア1例、レジオネラ症12例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎（B型）5例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、後天性免疫不全症候群9例（AIDS 2例、無症候7例）、ジアルジア症1例、髄膜炎菌性髄膜炎1例、梅毒4例、破傷風2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん13例、麻しん37例

報告遅れ：細菌性赤痢2例、パラチフス1例、E型肝炎1例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、マラリア1例、レジオネラ症1例、急性脳炎2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、髄膜炎菌性髄膜炎1例、風しん8例

#### ◆腸管出血性大腸菌感染症（2011年5月25日現在）

2011年の腸管出血性大腸菌感染症報告数は、第16週までは30例以下の報告が続いていたが、例年よりも早い第17週から増加し始めた。第18週70例、第19週65例と50例を超え、第20週は64例であった。本年第20週までの累積報告数462例は、2000年以降の各年の累積数と比較して2001、2010年に次ぐ3番目に多い報告数である（2000年375例、2001年709例、2002年415例、2003年232例、2004年345例、2005年349例、2006年329例、2007年384例、2008年439例、2009年408例、2010年466例）。

第1～20週の累積報告数462例についてみると、報告の多い都道府県は、食中毒による集団発生を反映して富山県（105例）、島根県（41例）が多く、次いで東京都（31例）、福岡県（26例）、神奈川県（22例）となっている。性別では男性202例、女性260例、年齢群別では0～9歳102例、10～19歳98例、20～29歳83例の順に多かった。第16週以降に島根県の社会福祉施設で発生したO26 VT1・VT2による集団感染では、家族内感染を含めこれまでに計34例の感染者が報告されている。また、第17週以降に富山県を中心（福井県、神奈川県、宮城県、大阪府からも報告）として同系列の焼肉店で発生した食中毒（O111 VT2、O157 VT1・VT2など）で、これまでに80例以上の感染者が報告されている。そのうち腸管出血性大腸菌感染症の重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症が28例報告されている。第19週以降に発生した山形県のだんご店に関連した食中毒（O157 VT1・VT2）については、山形県からの報告は遅れており未報告であるが、山形県以外の宮城県、福島県、埼玉県、東京都からこれまでに計10例が報告されている。さらに、第20週に富山県の焼肉店でO157 VT1・VT2による食中毒が発生した。HUSは第20週までに累計37例（男性13例、女性24例）報告されており、年齢群別では0～4歳4例、5～9歳7例、10～14歳4例、15～64歳20例、65歳以上2例であった。死亡例は1例（80代男性、O157 VT1・VT2、HUS発症）報告されている。

今後、毎年本症が数多く発生する夏季を迎えるにあたり、その発生動向には注意が必要である。食肉の十分な加熱処理などにより、食中毒の予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが重要である。

#### ◆手足口病

2011年第20週の手足口病の定点当たり報告数は0.65（報告数2,033）と2週連続して増加した。都道府県別では宮城県（3.53）岡山県（3.19）、福岡県（2.89）、香川県（2.87）、佐賀県（2.30）、大分県（1.94）、広島県（1.86）の順となっている。第20週は42都道府県で前週の報告数よりも増加がみられている一方、全国平均の定点当たり報告数を上回っているのは殆どが西日本の府県である。

累積報告数の年齢別割合をみると、発生報告の中心が5歳以下の乳幼児であることは例年と同様であり、2011年は3歳以下で全体の80%以上を、また5歳までで全報告数の90%以上を占めている。

手足口病の報告数は、第20週に入って前週の2倍以上の増加が見られた。現在は主に西日本で患者の発生が認められているが、今後は夏季の流行のピークに向かって患者発生数は継続的に増加し、全国の保育園、幼稚園等の乳幼児の集団生活施設を中心に流行が広がっていくものと推察される。手足口病の発生動向には今後とも注意深い観察が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(21週)	高知県(22週末累計) H23/1/3~H23/6/5
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	1	4	7	3	3		18 ( 0.38)	54 ( 1.13)	5,415 ( 1.11)	12,305 ( 256.35)
小児科	咽頭結膜熱			1	1	1	1	4 ( 0.13)	3 ( 0.10)	1,651 ( 0.53)	138 ( 4.60)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	14	51	4	5	9	85 ( 2.83)	74 ( 2.47)	7,884 ( 2.51)	1,120 ( 37.33)
	感染性胃腸炎	9	34	52	24	1	17	137 ( 4.57)	108 ( 3.60)	18,910 ( 6.03)	5,548 ( 184.93)
	水痘		5	17	5	3	9	39 ( 1.30)	34 ( 1.13)	6,119 ( 1.95)	1,108 ( 36.93)
	手足口病	1	6	27	1	1	1	37 ( 1.23)	24 ( 0.80)	2,076 ( 0.66)	269 ( 8.97)
	伝染性紅斑		1	4	2			7 ( 0.23)	12 ( 0.40)	2,220 ( 0.71)	168 ( 5.60)
	突発性発疹	1	2	11	5	1	4	24 ( 0.80)	23 ( 0.77)	2,022 ( 0.64)	307 ( 10.23)
	百日咳			1				1 ( 0.03)		83 ( 0.03)	10 ( 0.33)
	ヘルパンギーナ	3	4	16	1			24 ( 0.80)	11 ( 0.37)	692 ( 0.22)	111 ( 3.70)
	流行性耳下腺炎			4			2	6 ( 0.20)	10 ( 0.33)	2,731 ( 0.87)	155 ( 5.17)
	RSウイルス感染症									358 ( 0.11)	557 ( 18.57)
眼科	急性出血性結膜炎									20 ( 0.03)	( 0.00)
	流行性角結膜炎								2 ( 0.67)	426 ( 0.63)	21 ( 7.00)
基幹	細菌性髄膜炎									11 ( 0.02)	2 ( 0.29)
	無菌性髄膜炎									13 ( 0.03)	9 ( 1.29)
	マイコプラズマ肺炎			4				4 ( 0.57)	2 ( 0.29)	189 ( 0.41)	41 ( 5.86)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									9 ( 0.02)	2 ( 0.29)
計 (小児科定点当たり人数)		17 ( 8.25)	70 ( 9.79)	195 ( 17.16)	46 ( 14.93)	15 ( 6.75)	43 ( 8.60)	386 ( 12.51)			
前週 (小児科定点当たり人数)		17 ( 8.50)	59 ( 7.75)	161 ( 13.65)	41 ( 13.40)	32 ( 13.50)	47 ( 8.88)		357 ( 11.09)	50,829	21,871 ( 572.72)

定点当たり

第22週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(21週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ	0.25	0.36	0.44	0.60	0.75		0.38	1.13	1.11
小児科	咽頭結膜熱			0.09	0.33	0.50	0.20	0.13	0.10	0.53
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	2.00	4.64	1.33	2.50	1.80	2.83	2.47	2.51
	感染性胃腸炎	4.50	4.86	4.73	8.00	0.50	3.40	4.57	3.60	6.03
	水痘		0.71	1.55	1.67	1.50	1.80	1.30	1.13	1.95
	手足口病	0.50	0.86	2.45	0.33	0.50	0.20	1.23	0.80	0.66
	伝染性紅斑		0.14	0.36	0.67			0.23	0.40	0.71
	突発性発疹	0.50	0.29	1.00	1.67	0.50	0.80	0.80	0.77	0.64
	百日咳			0.09				0.03		0.03
	ヘルパンギーナ	1.50	0.57	1.45	0.33			0.80	0.37	0.22
	流行性耳下腺炎			0.36			0.40	0.20	0.33	0.87
	RSウイルス感染症									0.11
眼科	急性出血性結膜炎									0.03
	流行性角結膜炎								0.67	0.63
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎									0.03
	マイコプラズマ肺炎			0.80				0.57	0.29	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.02
計 (小児科定点当たり人数)		8.25	9.79	17.16	14.93	6.75	8.60	12.51		
前週 (小児科定点当たり人数)		8.50	7.75	13.65	13.40	13.50	8.88		11.09	

## 2011年週報推移(定点当たり)

